

2021年3月期第3四半期 決算説明会 Q&Aサマリー

Q1: 今期のT&M事業の状況と、今後の見通しを教えてください。

A1: 5Gチップセット及び携帯端末の開発需要やデータセンター高速化の需要が順調に推移しています。特にアジア地域において、5G商用化に向けた開発需要が売上を牽引しました。今後も、リリース15のアップグレードやデータセンターでの400G化など、アジアでの開発需要を期待しています。

Q2: 第3四半期（3か月）におけるT&M事業のサブセグメントの売上構成比と地域別の構成比を教えてください。

A2: セグメント別では、モバイル：58%、ネットワークインフラ：25%、エレクトロニクス：17%です。地域別では、日本：18%、アジア他：46%、米州：23%、EMEA：13%です。

Q3: 前年同期に比べ、「販売費および一般管理費」が減った理由と、今後の見通しを教えてください。

A3: 第3四半期でも新型コロナウイルス感染症の拡大は継続しており、展示会等の販促や出張等が制限されていることが「販売費および一般管理費」減少の主な理由です。現在の新型コロナウイルス感染症拡大の状況が改善される度合いに応じて、営業活動は通常に戻ると考えています。

Q4: 今期のR&D費に対する考え方と来期以降の計画について教えてください。

A4: コロナ禍にあっても、R&D投資促進に注力し、競争力強化に努めます。来期以降もリリース16やリリース17、および6Gに向けた高周波測定技術の探求など、積極的な投資を継続していきます。

Q5: データセンター高速化のための光関連の開発動向について教えてください。

A5: データセンター用のサーバーに組み込まれる光インターフェースの市場が旺盛です。ネットワークの逼迫により、暫くは光インターフェースの好調は続くと想定しています。さらに、今後機器の中のボード間の通信も400Gで繋ぐようになると、需要は増えると想定しています。